

# 第3回 下新川海岸マスタープラン検討委員会 資料

## 議 事

- 1 ) 第2回委員会議事要旨
  - ( 1 ) アンケート調査の補足整理

平成20年1月21日

黒部河川事務所

## 第2回 下新川海岸マスタープラン検討委員会 議事要旨

分野	第2回委員会(H19.3.8)における各委員からの主な意見	分野	第2回委員会(H19.3.8)における各委員からの主な意見
マスタープラン全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マスタープランの位置付け               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マスタープランには国が、富山県あるいは地元自治体と協力して、どういうふうな事業実施していくかという方針を提言の形でまとめる。</li> <li>○ 「マスタープラン」とは、将来のビジョンを提示する大きな考え方を示すものである。</li> <li>○ マスタープランに位置づける要点のひとつは、この地域は、他に比べてどういう特徴・価値があるのかということ。</li> <li>○ マスタープランの中で夢を描いていただいき、その実現のためのアクションプランをきちっと策定しておけば、実現は可能と思っている。</li> <li>○ マスタープランにはやっぱり夢と希望がないと、マスタープランと言えない。「どんな海岸にしたいのか」がマスタープランに記載すべき内容として重要。</li> <li>○ 30年後にはこうなる、といった形(マスタープラン)について合意を図る必要がある。</li> </ul> </li> <li>● 下新川海岸の特徴, 特異性               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通常のやり方で素晴らしい海岸にできるかという、多分できない。売りは何かという点からやっていたらだかなく、うまくいかない。侵食を止めるための最低限のことは国がずっとやってきた。今後どんな海岸にしたいのかということをお客さんの中から意見を出していただく。それに必要な情報は、これから国土交通省のほうからどんどん出していただく。</li> <li>○ 多少対策をしても侵食していく海岸であることを地元の方々に知ってもらうことを、最初にすべきであろう。</li> </ul> </li> <li>● 基本理念と夢のある下新川海岸の将来形               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事務局の「海岸整備の考え方」は迫力がない。迫力がない原因は、住民の生活利用に焦点を当てたためだと思う。「下新川海岸という特別な地域において、多くの人たちがその特徴を理解しながら、それを共有して、この海を大切にすることあるいは利用することが自分たちにとって非常に価値があるんだ」ということがわかるような文言にしていけないといけない。力強く誇りが持てるような形で書いていったらいいのではないか。</li> </ul> </li> <li>● 防護、利用、環境の選択               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防護が必要な海岸と利用拠点としての海岸という双方についてターゲットを絞ることによって、よりよいマスタープランになる。</li> <li>○ 子供が親子連れで遊べる、あるいはふれ合えるところという拠点づくりも重要なことだと思う。</li> </ul> </li> <li>● 国、県、市町の役割分担と連携               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県と沿岸の市町が国土交通省と一体となって概算要求を出していくというようなことは非常に魅力的なことではないか。</li> </ul> </li> <li>● 地域住民への周知と合意形成               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次に各地区ごとにワークショップを開いて、市町・県・黒部河川事務所が科学的知見に基づき「下新川海岸全体で一番ひどい状況になっているところに、まず海岸を復活させるような形でやろう」というような合意を得ることが必要。その順番を決める合理的な指標をマスタープランの中に入れないと問題になる。</li> </ul> </li> <li>● その他               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マスタープランを議論するときに、例えばチップトイレのような環境整備に協力していただく何か新しいシステムを提案する必要があるのではないか。(ゴミ対策)</li> </ul> </li> </ul>	アンケート  施設整備  土砂管理  周知・情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世代別の再整理               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世代別の抽出、聞き取り調査・フォーカスグループ調査等を加える必要がある。</li> </ul> </li> <li>● 侵食対策の必要性               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 完全に侵食を防ぐということはまずできないが、侵食対策をしていかないと、侵食が進み危険を増してしまう。今後とも侵食対策は必要である。</li> <li>○ 現在侵食が止まっているように見えるのは、国が海岸保全施設の整備を行ってきた結果である。</li> </ul> </li> <li>● 施設整備計画と優先順位               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 黒部川扇状地の縮小過程を緩め、被害を軽減する目的で防護の観点から代表的な地区に集中的な投資を始めて、それを周辺に広げていくというふうな方向もある。</li> <li>○ 非常に広い下新川海岸全体を対象として、限られた財源でこのマスタープランを達成するという制約条件がある。</li> </ul> </li> <li>● 防護機能に加え利用・景観に配慮した施設整備               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 構造物も、もっと景観にやさしいというか、景観を重視したものがあってもいい。</li> </ul> </li> <li>● 土砂管理の役割分担               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 土砂を運んでもらって、運び賃のかわりに土砂の一部を砂利採取業者に渡すという、物々交換のような形で海岸保全をやっている所があるので参考にすべき。</li> </ul> </li> <li>● 侵食ミュージアム               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本で唯一最初の侵食ミュージアムを提案したい。日本が技術支援をするに当たって海外の技術者に下新川海岸を見てもらおう場合などニーズは大きい。</li> </ul> </li> <li>● 副読本の製作               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 下新川海岸について知識を結集した学校の副読本をつくって、小学校高学年とか中学生に、この下新川海岸というのはこういう成り立ちで、今まさにこういうふうに変わりつつある、ということをきちっと理解していただかなければいけない</li> </ul> </li> </ul>

## アンケート調査の補足整理

### 1. アンケート調査の目的

下新川海岸マスタープランは、災害に強いだけでなく、地域にも愛される下新川海岸の創出のため、下新川海岸の直轄施工区域を対象とした海岸保全施設の具体的な整備計画および、富山県管理海岸区域も含めた下新川海岸の総合的な土砂管理方針を、地域の参画を得て策定するものである。

このマスタープラン策定にあたっては、地域住民の方々の下新川海岸の海岸整備に関する意見や思いを把握し、反映させるため、アンケート調査を実施することとした。調査は、特定の人の意見に偏らない地域の総意を出来るだけ把握出来るように下新川海岸背後地の全世帯と、無作為抽出した内陸部の住民を対象に実施した。なお、調査にあたり、アンケートは「マスタープラン検討委員会に報告し、これをもとに整備計画を検討する」という前提で協力して頂いた。

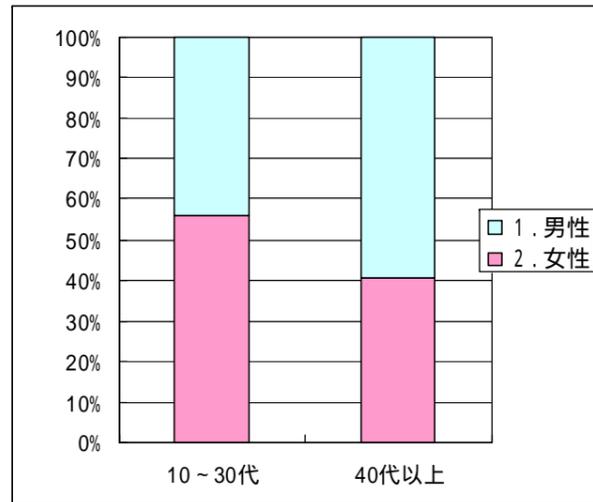
### 2. アンケート調査の補足整理

#### (1) 世代別の集計

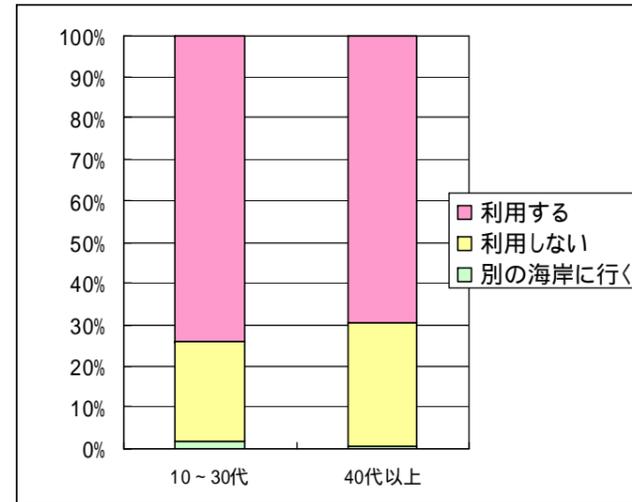
第2回検討委員会の「世代別の抽出、聞き取り調査・フォーカスグループ調査等を加えること」の意見より、平成18年に実施したアンケート調査を基に背後地の世代別の抽出を行った。10～30代と40代以上の世代に分類し意識の差異を把握することにした。

回答者数 10～30代 280名(男性123名,女性156名,無回答1名) 40代以上 3,200名(男性1,879名,女性1,286名,無回答35名)

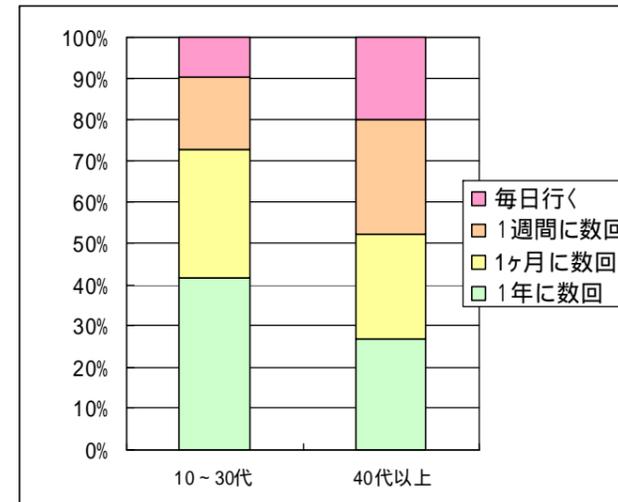
回答者の性別



【問2】あなたは「海岸」を利用しますか？

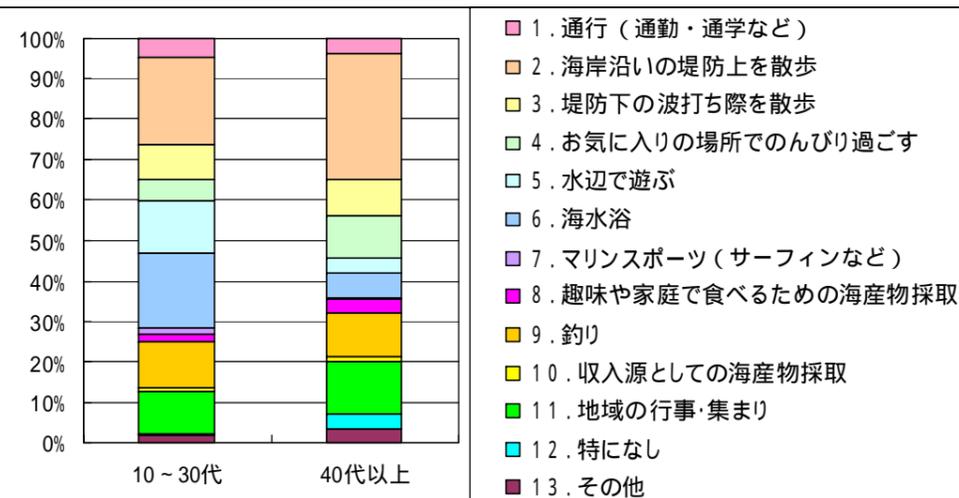


【問3】あなたが「海岸」に行く回数を教えてください。



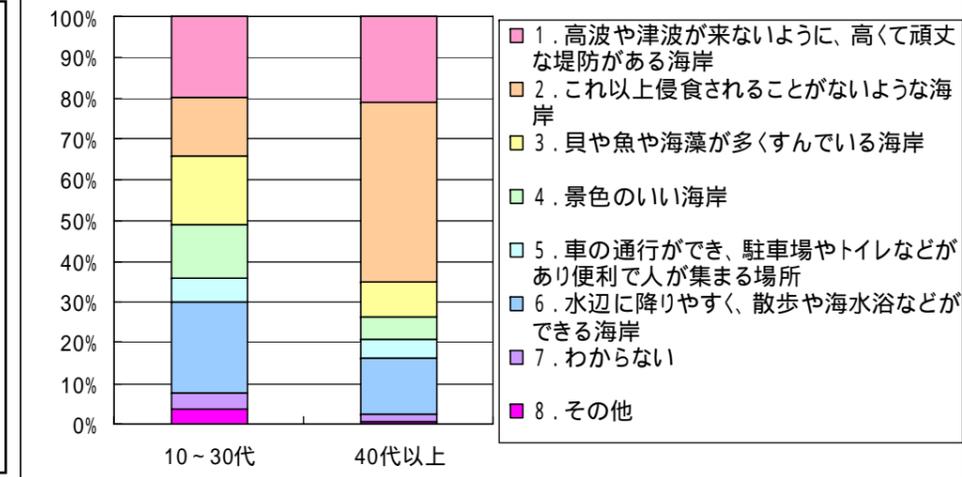
10～30代と40代以上で海岸利用の状況は変わらないが、利用回数に差がある。  
40代以上は、「毎日行く」、「1週間に数回行く」人の割合が多い。  
10～30代は、「1年数回行く」人の割合が多い。

【問4】「海岸」を利用する主な目的をお答え下さい。(複数回答可)



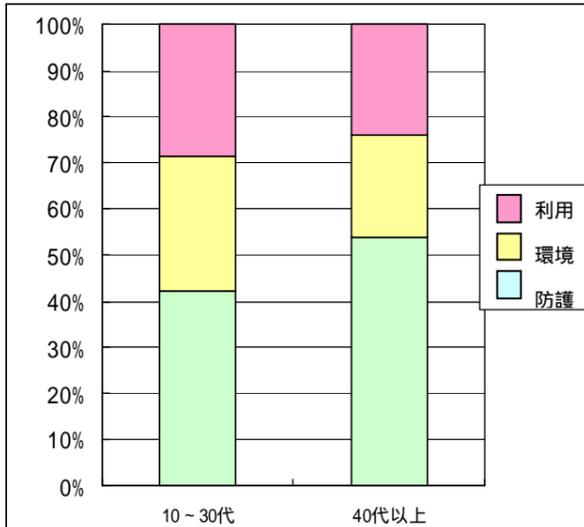
10～30代では、「2. 海岸沿いの堤防上の散歩」、「6. 海水浴」、「5. 水辺で遊ぶ」等の利用をする人の割合が多い。  
40代以上は、「2. 海岸沿いの堤防上の散歩」をする人の割合が多い。

【問9】あなたが「海岸」に求めることで、最も大切なことは次のどれですか？「一つだけ」選んでください。



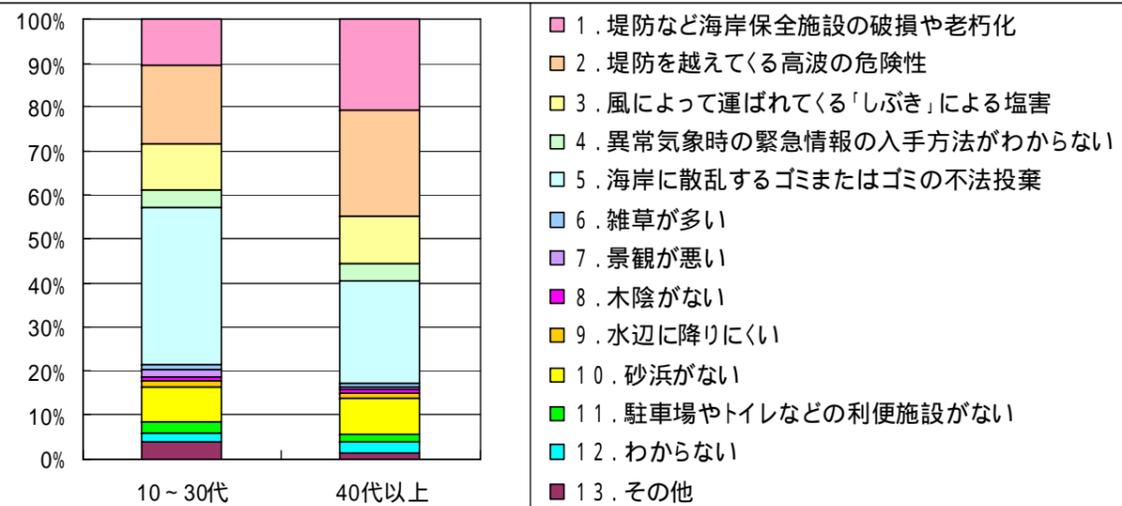
10～30代では、「6. 水辺に降りやすく、散歩や海水浴ができる海岸」、「1. 高波や津波が来ないように、高く頑丈な堤防がある海岸」が大切と考えている人の割合が多い。  
40代以上では、「2. これ以上侵食されることがないような海岸」が大切と考えている人の割合が多い。

【問 10】今後の「海岸」の施設整備について伺います。あなたはどの分野を重視しますか。



10～30代、40代以上とも防護を重視する人の割合が多い。

【問 11】「海岸」においてあなたが最も深刻と考える、または心配している問題点は次のどれですか？「一つだけ」選んでください。



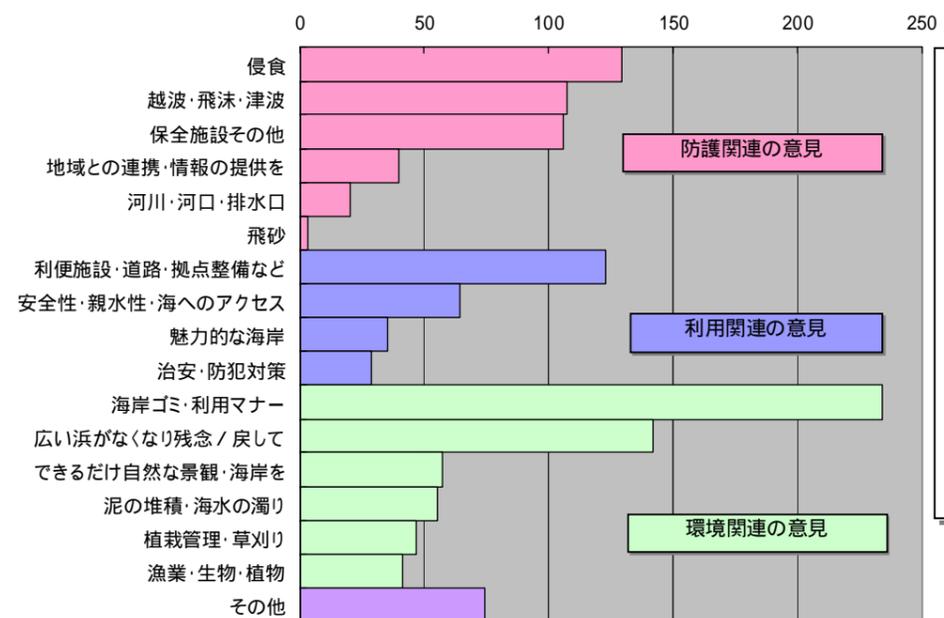
10～30代では、「5. 海岸に散乱するゴミまたはゴミの不法投棄」と考えている人の割合が最も多い。  
40代以上では、「5. 海岸に散乱するゴミまたはゴミの不法投棄」と考えている人の割合が最も多いが、「2. 堤防を越えてくる高波の危険性」、「1. 堤防など海岸保全施設の破損や老朽化」等の防護に関する事項を考えている人の割合も多い。

【問 12】あなたが「海岸」をよりよくするために、個人的に、または地域として取組んでもよいと考える



世代毎の差異は少ない。どの世代も「1. 海岸清掃」への取り組み意識が高い。

【問 14】下新川海岸についての思いやご意見



自由意見欄のテーマについて分類すると、海岸ゴミについて住民の負担が大きく、改善が求められている。  
同様に、侵食（環境面に分類した生活環境としての砂浜の消失含む）に対する心配の意見も非常に多く、次に高波への不安についての意見が多く寄せられた。

アンケート補足調査のまとめ

- 【問 9】から、40代以上では「これ以上侵食されることがないような海岸」が大切と考える人が最も多く、防護を重視しており、10～30代では「水辺に降りやすく、散策や海水浴ができる海岸」も大切と考える人が多く、利用も重視する傾向があったが、【問 10】から、どの世代も防護を重視している事がわかった。
- 自由意見では、砂浜の復活を求める声が多く、砂浜は防護機能、環境機能、利用機能も有しており、砂浜を大切と考える人が多いことが把握できた。
- 下新川海岸マスタープランでは、このような地域住民の方々の下新川海岸に対する思いを実現していくために、アンケート調査を反映した海岸整備計画及び土砂管理計画を策定する。